

平成30(2018)年度県立高等学校入学者選抜の結果について

平成30年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が2月7日水曜日及び同月8日木曜日、一般選抜が3月7日水曜日、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月7日水曜日、一般選抜が3月19日月曜日に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

平成30年3月の県内中学校卒業見込者数（前年比449人減）を考慮し、全日制課程の定員を12,195人（前年比240人減）とした。

2 平成30年度入学者選抜について

(1) 特色選抜

特色選抜については、全ての全日制課程高校59校120系・科で実施された。特色選抜においては全ての高校で面接を実施しており、35校81系・科では作文を、20校32科では、小論文を実施した。また、学校独自検査は7校9科で実施しており、7校8科で学校作成問題を、1校1科で実技を実施した。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から一般選抜（学力検査）の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度は3校3科で国数英の3教科を実施した。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を1.5倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜（学力検査）受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は24校78科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行うA海外特別選抜で36名が合格した。

定時制課程においては、満20歳以上の志願者は、学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、3名が合格した。

以下、各教科の学力検査問題（全日制）について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程受検者1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	平成30年度				平成29年度				平成28年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜
募集定員	12,195		640		12,435		640		12,435		640	
受検人員	5,473	10,205	148	232	5,925	10,590	163	258	5,754	10,686	140	241
受検倍率	1.88	1.19	1.23	0.44	2.03	1.21	1.36	0.48	1.96	1.22	1.17	0.45
合格人員	3,323	8,388	111	230	3,374	8,564	107	235	3,359	8,581	106	239
合格倍率	1.65	1.22	1.33	1.01	1.76	1.24	1.52	1.10	1.71	1.25	1.32	1.01

※ 受検倍率＝受検人員÷定員， 合格倍率＝受検人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語に関する知識・理解、適切に表現する能力、正確に理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語に関する事項についての知識及び理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方を捉えたり、あるいは作品の描写や登場人物の心情などを読み取ったりするなどして自分の考えをまとめて表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材にして、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、自分の意見の根拠を明確にして適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語に関する単なる知識の確認にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立てることを意図して出題した。

1の漢字の読みの問題は平均正答率が98.6%、2の漢字の書きの問題は平均正答率が81.4%であった。漢字の読みでは、(1)から(5)まですべて正答率が97%を超えており、どの漢字においてもよく読めていた。漢字の書きでは(1)「打つ」が97.8%で最も正答率が高く、最も正答率の低い(5)「奮い立たせる」が63.6%という結果であった。日常生活で使用する語彙の確実な定着を今後も継続したい。

3の俳句の季節を問う設問は正答率が64.8%、敬語表現に関する設問は64.4%であった。伝統的な四季を表す語句や、日常生活で使用される敬語表現の学習を継続し、定着させることが望まれる。

2 は、鎌倉中期の説話集「十訓抄」を素材として出題した。成長した孫の姿を一目見たいという翁の思いから出た行動と、周囲の人々のその内容の受け取り方のずれから生じる面白さをテーマとした文章である。歴史的仮名遣いや動作の主体を答える問題、翁の人物像などを問う問題を出題した。

1の歴史的仮名遣いにおいては、正答率が75.9%と例年よりやや低い正答率であった。また、2の主語にあたる人物を答える設問は44.8%という正答率であった。

主語を補いながら読み進める古文の学習の特徴を念頭に、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等の継続が重要である。また、言語文化を継承するという観点からも、古文特有の言葉に注目したり、話の面白さを味わったりするなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3 は、岡田英弘の「歴史とはなにか」を素材として出題した。歴史と時間の関連性について論じた文章である。

設問3の脱文補充問題の正答率が37.2%であり、論理的に読み進め、脱文を補う問題に対する苦手意識がうかがえる。また、記述問題では、理由を説明する設問2について部分正答を含む正答率が59.9%、時間と歴史に関する筆者の考えについて説明をする設問5の部分正答を含む正答率が15.0%であった。記述問題においては、本文の語句を適切に用いて説明する力を身に付けることが重要である。

説明的な文章を読解する上では、主張、例示、具体例など、文の構成を意識しながら読み進めたり、根拠を抜き出したりするなどして、筆者が本文全体を通して伝えようとしていることを正確に読み取る力を養っていく必要がある。その際には、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、論理の展開について考えたりする学習を取り入れることも効果的である。

4 は、宮下奈都の「窓の向こうのガーシュウィン」を素材として出題した。主人公である「私」と同級生「隼」の、隼の祖父である「先生」をめぐるそれぞれの思いを描いた場面を取り上げた。文章は受検者にとって読みやすいものであった。

文学的な文章の読解では、主観によらず、場面設定を踏まえ、それぞれの人物の心情や言動を押さえながら読み進めていくことが要求される。

選択問題については、登場人物の心情を問う設問1の正答率が86.0%であった。一方で、同じく心情を問う問題でありながら、その内容を自分の言葉で説明する設問2の記述形式になると、部分正答率を含む正答率が61.3%となっている。説明内容を本文に即して、自分の言葉で簡潔にまとめて記述する力を身に付けることが求められる。

文学的な文章では、グループ活動等において、各自の読みの交流を図ることも大切であるが、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとに登場人物の言動の意味を考えさせたりする学習活動によって、確かな読みの育成につなげていきたい。

5 の作文は、海外の中学生が来校した際に開かれる歓迎会の内容について、メンバーに具体的な提案をするという設定のもと、条件に沿って内容を適切に書く能力を評価するものである。

テーマに対する適切な具体例と、自分の考えを関連づけて適切に表現することを求めている。また、日本の状況を踏まえた説明も重要であることから、普段の生活の中において、身の回りの出来事に対する意識を高め、考える習慣を身に付けるとともに、読み手の立場に立って自分の意見を表現する訓練をしておきたい。

また、授業の中では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」との関連において、根拠や理由の整理の仕方、効果的な表現の使用などについて確認し、書くことの学習の充実を図ることで、自ら考え、表現する力の向上を目指したい。

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	99.8 %	2	1	75.9 % (75.9)	4	1	1	86.0 %	
		(2)	98.1 %		2	44.8 %			2	15.2 % (61.3)	
		(3)	99.1 %		3	17.1 % (28.5)			3	0.3 % (19.8)	
		(4)	98.3 %		4	61.7 %			4	46.4 %	
		(5)	97.6 %		5	39.9 %			5	60.3 %	
	2	(1)	97.8 %	3	1	61.3 %		5	6	6	48.3 %
		(2)	86.4 %		2	36.7 % (59.9)	(98.5 %)				
		(3)	83.1 %		3	37.2 %					
		(4)	76.0 %		4	46.2 %					
		(5)	63.6 %		5	2.2 % (15.0)					
	3	(1)	64.8 %	6	67.5 %						
		(2)	82.0 %								
		(3)	64.4 %								
		(4)	98.8 %								
		(5)	97.6 %								

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 社会科のまとめとして **7** を出題し、その中で各分野の学習の成果を活用する力をみようとした。
- 3 基礎的・基本的内容を各分野から取り上げて出題し、社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。
- 4 地図・統計・写真・年表等から必要な情報を適切に読み取り、表現する力をみようとした。
- 5 各分野において論述問題を出題し、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的 分野	歴史的 分野	公民的 分野	総合	合計
選 択	7(14)	8(16)	6(12)	3(6)	24(48)
記 述	4(8)	5(10)	5(10)	0(0)	14(28)
論 述	2(8)	2(8)	1(4)	1(4)	6(24)
合 計	13(30)	15(34)	12(26)	4(10)	44(100)

() 内の数字は配点

結果の概要

1 は、地理・歴史・公民の各分野についての基礎的・基本的な知識に関する理解の程度をみようとした。全体的に正答率は高かった。

2 は、地理的分野のうち、世界の様々な地域に関する出題である。今回はヨーロッパ州の特色について、自然環境や産業など複数の地理的事象を関連付けて考察し、理解する力をみようとした。**1** は、ヨーロッパ州の地形に関する理解の程度をみる問題で、正答率は25.2%であった。**2** は、ヨーロッパの複数の都市の雨温図を読み取り、その地理的な位置を理解できるかをみる問題で、正答率は43.4%であった。**5** の論述問題は、EU加盟国にみられる貿易の特徴について、複数の資料を活用して、適切に表現できるかをみるもので、正答率は39.0%であった。

3 は、地理的分野のうち、日本の様々な地域に関する出題である。今回は日本全体の視野から、気候

や産業、都市の特色についてとらえているかをみようとした。**3** は、日本の産業の地域的特色について、統計資料をもとに思考し判断する力をみる問題で、正答率は36.3%であった。**5** の論述問題は、大都市圏における人口の移動について、人々の生活や産業と関連付けて考察し、適切に表現できるかをみるもので、正答率は40.7%であった。

地図や統計、グラフ等を活用して、地理的事象を説明したり、意見を交換したりする学習活動を一層重視して、思考力等の育成を図っていく必要がある。

4 は、歴史的分野のうち、古代から近代までを扱い、日本の絵の歴史を素材として、広い視野に立って伝統や文化の特色をとらえているかをみようとした。**3** の論述問題は、室町時代に京都の文化が地方に波及したことについて、応仁の乱などの歴史的事象に関する知識を踏まえ、資料を読み取り、適切に表現できるかをみるもので、正答率は4.6%であった。

5 は、年表に示された、文明開化・殖産興業から戦後復興期までの歴史的事象に関する問題である。

1 は、日本の近代化に関する理解の程度をみる問題で、正答率は24.4%であった。**5** の論述問題は、「黒部ダム建設」を素材として、複数の資料を関連付け、日本の戦後復興と電力の需給関係について考察し、適切に表現できるかをみるもので、正答率は33.3%であった。

歴史的事象を個別に覚えるだけの学習ではなく、歴史的事象の意義や特色について、各時代の特色などを踏まえ考察したり、表現したりする学習を一層重視して、思考力等の育成を図っていく必要がある。

6 は、公民的分野からの出題である。**1** は、主に経済に関して出題し、(3)は、消費者行政に関する理解の程度をみた。正答率は40.9%であった。政策や法律の名称を覚えるだけでなく、政策や法律の役割や重要性について考え、理解する学習が大切である。**2** は、主に政治に関して出題し、(2)の論述問題は、資料を考察して、現在実施されている選挙の課題を見出し、日本国憲法や基本的人権についての知識を踏まえ、適切に表現できるかをみるもので、正答率は9.5%であった。憲法や基本的人権などに関する知識を、現代社会の具体的な事象や課題などと関連付けて考察したり、表現したりする学習が大切である。

7 は、地理・歴史・公民の各分野の学習成果を活用し、持続可能な社会の形成に向けて考察・構想し、自分の考えを表現する力をみようとした。今回は人口問題を取り上げた。**3** は、資料を活用して思考・判断する力をみる問題で、正答率は41.6%だった。**4** の論述問題は、子育て支援に関する具体的な内容を三つの取組にまとめ、自分の言葉で適切に表現できるかをみるもので、正答率は、A-33.8%、B-27.4%であった。

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率		
1	1	(1)	95.1 %	3	36.3 %	6	1	(1)	82.2 % (82.5)	
		(2)	76.9 %		4			73.4 % (76.6)	(2)	62.8 %
		(3)	65.8 %		5			40.7 % (82.3)	(3)	40.9 %
		(4)	94.5 %	1	69.7 % (71.6)			(4)	64.9 % (65.5)	
	2	(1)	67.4 % (67.6)	2	86.3 %			(5)	73.2 %	
		(2)	92.6 % (92.7)	3	4.6 % (44.1)	7	2	(1)	76.7 % (76.8)	
		(3)	80.5 % (83.6)	4	84.5 %			(2)	9.5 % (59.8)	
		(4)	59.8 % (61.5)	5	70.7 %			(3)	36.8 %	
2	1	25.2 % (25.2)	6	80.2 % (80.2)	(4)			73.1 %		
	2	43.4 %	7	25.1 % (25.1)	(5)			57.5 % (58.1)		
	3	55.3 %	5	1	24.4 % (32.3)	1	58.0 %			
	4	64.6%		2	65.9 %	2	87.2 %			
	5	39.0 % (84.1)		3	51.7 %	3	41.6 %			
3	1	69.3 %		4	81.7 % (82.2)	4	A	33.8 % (47.0)		
	2	65.8 %		5	33.3 % (71.7)			B	27.4 % (41.7)	

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即して、数学の基礎的な知識・技能及び数学的な思考力・判断力・表現力を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、資料の活用の4領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式、方程式の問題を通して、数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、基礎的・基本的な知識・技能、数学的に考察し表現する能力を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量問題や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して、基礎的な概念や性質を活用し筋道を立てて説明する能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的・基本的な問題を通して、関数的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 5 資料の活用の領域では、代表値や確率に関する基礎的・基本的な問題を通して、統計的な見方や考え方及び確率的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 6 数と式、図形、関数、資料の活用のうち、いくつかの領域からなる融合問題を通して、事象の中に潜む関係や法則を数理的に考察し、数学的な思考力・判断力・表現力を用いて、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な知識及び技能をみる問題であり、平均正答率は81.0%であった（昨年度は78.8%）。良好な結果であり、これからも基礎・基本の定着を図ってほしい。ただし、正多面体の内角、関数の変化の割合の2分野は70%を下回った。いずれも基本的な内容だけに、確実に理解してもらいたい。

2 は、三つの領域（図形、資料の活用、関数）における知識及び技能をみる問題であり、1 は作図問題、2 は確率、3 は比例と反比例についてのいずれも基本的な内容である。正答率は1 が43.7%、2 が56.5%、3 が50.4%であった。1 と同様に、基礎的・基本的な内容について繰り返して学習することが重要である。特に、作図については、図形の性質とともに基礎的な作図の方法

を理解することが大切である。

3 は、思考過程を論述させることを通して、数学的に考察し表現する能力をみる論述式問題である。1 は、1円と5円硬貨の枚数が4の倍数であるときはその合計金額が必ず4の倍数であることを証明する問題であり、正答率は18.8(40.2)%(()内は部分正答も含めた割合)であった。また、2 は、直方体の体積に関して2次方程式を立式する問題であり、正答率は28.6(61.1)%であった。

自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを伝え合ったりする活動などを通して、数学的な思考力・表現力を高めてほしい。

4 は、図形についての基本的な証明や計量問題を通して、図形の領域における思考力・判断力・表現力をみる問題である。1 は、二等辺三角形の性質などを用いて三角形の合同を証明する論述式問題であり、正答率は42.6(88.7)%であった。根拠を明らかにしながら論理的に考察する力や、考えを的確に表現する力の定着を心掛けてほしい。2 は、2つの同心円に関する問題であり、(1)が円周角の定理または平行線の性質を用いて角の大きさを求める問題、(2)が円の性質や平行線における線分の比の性質、三平方の定理等を用いて面積を求める問題である。正答率は(1)が20.6%、(2)が18.7%であった。問題場面を的確に把握し、中学校で学んだ図形の学習内容と結びつけ、考察の方法を自ら選択して問題解決を図るような学習活動の充実が望まれる。

5 は、三角形の辺上を2点が動くときの面積に関する問題である。1 は(1)が2乗に比例する関数、(2)が1次関数のいずれも関数の式に関する問題であり、正答率は(1)が62.0%、(2)が37.1%であった。2 は場面に適したグラフを選択する問題であり、グラフの変化を場面の変化に結びつけて説明する問題である。問題場面とグラフの関連性を意識し、根拠を分かりやすく説明することを普段の学習から心掛けることが大切である。また、3 は三角形の面積が3度目に500cm²となるときの時間を求める問題である。グラフを活用して問題場面を的確に把握することが問題解決の鍵となる。3 の正答率は2.7%であった。

6 は、長方形から正方形を切り取る図形の問題を通して、問題の意図する場面を的確に捉え、問題を解決するための思考力・判断力・表現力をみる問題である。正答率は、1 が51.3%、2 が10.0%、3 が3.5(6.7)%、4 が0.5(1.4)%であった。普段の学習において、場面を的確に捉え、自ら図を描き、試行錯誤しながら粘り強く問題解決に取り組むことを心掛けてほしい。

数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問	題	正答率	問	題	正答率	問	題	正答率
1	1	98.7 %	2	1	43.7 %	6	1	51.3 %
	2	85.8 %		2	56.5 %		2	10.0 %
	3	93.4 %		3	50.4 %		3	3.5 % (6.7)
	4	92.7 %	3	1	18.8 % (40.2)		4	0.5 % (1.4)
	5	81.5 %		2	28.6 % (61.1)			
	6	77.5 %	4	1	42.6 % (88.7)			
	7	80.9 %		2	(1)	20.6 %		
	8	70.9 %	(2)		18.7 %			
	9	85.1 %	1	(1)	62.0 %			
	10	79.9 %		(2)	37.1 % (50.7)			
	11	58.5 %	5	2	(1)	67.6 %		
	12	94.3 %			(2)	37.7 %		
	13	71.0 %	3	3	2.7 %			
	14	63.5 %						

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、物理的領域、化学的領域、生物的領域、地学的領域の4領域の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活と関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての関心と理解、基礎的・基本的な知識をみるようにした。
- 3 観察・実験についての基礎的な知識・技能をみるようにした。
- 4 観察・実験を通して、自然の事物・現象を科学的に調べ、論理的に思考する力をみるようにした。
- 5 自然の事物・現象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

結果の概要

1 は、小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の正答率の平均が68.6%、記述問題で67.3%であった。正答率の高かった問題は、6の仕事の77.2%、8の露点の81.4%であった。ここ数年は、選択問題の正答率がいずれも75%を超えていたが、今年度は4問中3問が75%を下回り、やや低調であった。

2 は、鹿沼土の観察を通して、火山の噴火のようすや噴出物について、論理的に思考する力をみる問題である。1の鉱物は、正答率が29.3%と低かった。岩石の名称を覚えるだけでなく、実際に鉱物を観察することも必要である。

3 は、炭酸水素ナトリウムの熱分解の実験を通して、仮説に基づいて検証するなどの、科学的に考察する力をみる問題である。実験・観察によって得られた結果と、中学校の理科の学習で得た複数の知識を応用し、仮説を丁寧に検証することが必要である。また、物質の変化を化学式を用いて表す学習を積み重ねておくことも大切である。4①の炭酸ナトリウムの化学式は、正答率が24.7%と低かった。

4 は、花粉管の伸長の観察を通して、被子植物の生殖についての理解や観察する力をみる問題である。1の顕微鏡の操作、2の受精のしくみについては、観察や学習による理解の定着が図られており、いずれも80%前後の高い正答率となった。

5 は、基本的な電気回路や抵抗の接続の違いについて理解する力をみる問題である。電流・電圧・抵抗の関係、直列・並列の違いなど、普段の学習の中で理解を深めておく必要がある。また、実験結果を基にグラフを作成する力をつけることも大切である。2の電流の正答率は17.6%と低かった。

6 は、溶解度の違いから物質を同定する実験を行い、物質の溶解について考察する力をみる問題である。未知試料について様々な実験を行い、結果と溶解度曲線から物質を推定するため、実験で得たデータの考察とグラフを適切に読み取る必要がある。2の再結晶の正答率は13.7%と低かった。

7 は、刺激の受容とその伝達経路について、実験を通して考察する力をみる問題である。教科書中にある図や写真については、本文とともによく見ておいてほしい。また、反射についての問題などは、適切に文章にまとめる学習を日頃から行う必要がある。

8 は、光の屈折の実験を通して、光の進み方について考察する力をみる問題である。入射角や屈折角などの用語は言葉として覚えるだけでなく、実際の現象と結びつけることが大切である。また、光の屈折に関する現象は水を張った水槽など、身の回りにも多く見られる。理科の学習内容を日常や社会と結びつけて理解することが大切である。

9 は、太陽の黒点の観察を通して、太陽の特徴や自転について考察する力をみる問題である。太陽の特徴については理解の定着が図られており、1の恒星や3の太陽の特徴の正答率はいずれも80%を超えた。しかし、4の見かけの大きさについては、計算を含むためか正答率が9%とかなり低く課題である。

理科の学習は、用語を覚えることはもちろんであるが、実験・観察で得られた結果について、計算をしたり、グラフを書いて、仮説を検証したりすることが大切である。また、考察したことを自分の言葉で表現する練習も重ねてほしい。

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率		
1	1	71.6 %	3	4	②	72.8 % (75.6)	7	1	42.3 %	
	2	62.3 %		4	1			81.0 %	2	22.5 % (25.8)
	3	65.1 %	2		①	81.0 % (83.0)		3	15.8 % (16.0)	
	4	75.2 %			②	76.6 % (77.6)		4	42.6 % (62.7)	
	5	55.9 % (57.9)	3		69.1 % (73.1)	8	1	27.3 %		
	6	77.2 % (77.2)	5	1			65.7 % (65.7)	2	光の 道筋	27.1 % (34.2)
	7	54.8 % (56.6)		2	電圧		70.8 % (70.8)		見え 方	19.7 %
	8	81.4 % (84.5)	3		37.3 % (37.6)		3		70.8 % (71.7)	
2	1	29.3 % (29.8)	4		34.9 %	9	1	82.9 % (86.1)		
	2	67.8 %	6	2			13.7 % (13.7)	2	70.2 %	
	3	58.3 % (68.9)		1	試験 管C		54.8 % (55.3)	3	①	76.6 % (79.7)
3	1	85.6 %	3		試験 管D		46.6 % (46.6)		4	②
	2	61.4 %		2		29.3 % (30.2)	9.0 % (9.0)			
	3	47.2 %	濃度							
	4	①	24.7 % (25.0)	温度		47.3 %				

※ () 内は部分正答も含めた割合

英 語

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの言語活動の4領域にわたって出題するように努めた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取る、基礎的な力を主にみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語で正しく伝える力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にして、音声によるコミュニケーション活動を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体平均正答率は、52.0%であった。**1**は短い対話を聞いて適切に応答する力をみる問題である。5問の平均正答率は58.3%であった。**2**は対話を聞いて、内容を理解する力をみる問題であり、小問ごとに設問2つに答える形式である。正答率の平均は67.5%であり、各小問の平均正答率は(1)が70.3%、(2)が64.8%であった。**3**はまとまった長さの英文を聞いて、その要点を捉える力をみる問題であり、4問の平均正答率は54.8%であった。コミュニケーション能力を育成するためには、英語を聞いて必要とされる情報を正確に把握することのできる「聞く力」を育成することが大切である。

2 は、基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題で、基礎的・基本的な言語材料を活用したe-mailへの返信文を素材にしている。6問の平均正答率は62.5%である。**2**は語句を並びかえ、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるための問題である。この出題形式の3問の平均正答率は65.5%である。

3 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える

力をみる問題で、異文化理解をテーマに出題している。今年度はインドネシアの「テンペ」を話題として扱った対話文を出題した。4問の平均正答率は39.2%であった。**1**、**4**の文脈から概要を捉え下線部の内容を解答する問題は、それぞれの正答率が66.6%、11.9%であった。**2**、**3**の文脈から概要を捉え解答する問題は、それぞれの正答率が54.9%、72.6%であった。

4 は、書くことによって表現する力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。**1**は日本語のメモをもとに趣味について書く際に用いる英語を答える問題である。小問2問の完全正答率の平均は43.4%であり、中間点を含めると52.6%であった。**2**は絵をヒントに文脈から判断して、適切な英語で表現する力をみる問題である。小問2問の完全正答率の平均は28.7%であり、中間点を含めると45.1%であった。具体的な場面や状況を把握し、適切な表現を活用して書くことが求められる。**3**は、英語で表現する力をみる問題である。今年度は、「図書館で勉強するのは家で勉強するよりもよい」というテーマについて自分の立場を決めてその理由を明確にして英語で表現する出題とした。完全正答率は10.4%であったが、中間点を含めると77.6%であった。自分の気持ちや考えが相手に伝わるように英語で書く力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図ることと、英文の構成力・表現力の育成を目指して、日頃から英語で表現しようとする取組を積み重ねることが重要である。

5 は、物語文を素材として用いる読解問題で、文脈に沿って内容を適切に理解する力、概要や要点を捉える力をみるものである。今年度は、絵手紙を通した主人公と祖母の交流を描いた物語文を題材にした。4問の平均正答率は44.8%であった。**2**は、本文について、前後の文脈を理解した上で、主人公の気持ちを表す適切な英語を選択する問題を出題した。

6 は、説明文を素材として用いる読解問題で、今年度はトマトに関する説明文を出題した。4問の平均正答率は23.8%で、中間点を含めると42.7%であった。

英文の内容を説明したり、その要点を捉え概要をまとめたりする力を身に付けるためには、日常的にまとまりのある英文の読解に取り組むことも大切である。

(全日制課程全受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	59.7 %	2	1	(1)	82.8 %	4	1	(1)	20.1 % (34.8)
		(2)	46.5 %			(2)	76.2 %			(2)	66.6 % (70.3)
		(3)	38.0 %			(3)	69.6 %		2	(1)	42.0 % (59.8)
		(4)	85.4 %			(4)	51.3 %			(2)	15.4 % (30.3)
		(5)	61.7 %			(5)	34.1 %	3		10.4 % (77.6)	
	2	(1)	①			61.6 %	(6)	61.0 %	5	1	29.8 % (49.0)
			②	79.0 %	(1)	85.0 %	2	70.6 %			
		(2)	①	58.0 %	2	(2)	73.8 %	3		16.0 % (22.0)	
			②	71.5 %		(3)	37.7 %	4		63.8 %	
	3	(1)	59.3 % (59.3)	3	1	66.6 % (81.4)	6	1	40.2 % (52.8)		
		(2)	54.6 % (54.6)		2	25.6 % (54.9)		2	36.1 % (64.6)		
		(3)	50.1 % (86.4)		3	72.6 %		3	17.5 % (52.1)		
		(4)	55.3 % (55.4)		4	11.9 (42.2)		4	1.2 % (1.3)		

※ () 内は部分正答も含めた割合